

③ 明日を担う人材の育成

里島の活性化や産業の振興のほか、地域のコミュニティや文化・伝統芸能を支える人材など、里島を取り巻く環境や時代の変化に的確に対応していくための核となる人材が求められています。

そこで、個性あふれる里島を守り育てるとともに、新たな地域社会の創造や構築に向け、人材育成大学などへの派遣や地域での研修会を開催するなど、地域の活性化につながる地域リーダーの育成に取り組みます。



だんじり(津和地島)〈たなかあつし氏作〉

④ 産物の販売促進・販路拡大

島しょ部では、基幹産業の不振により、地域経済が低迷している状況にあります。こうした現状を打破するためには、特産品などの新たな流通ルートを確保し、農家や漁家経営の安定に向けた所得向上を図っていく必要があります。

こうした課題の解決に向けて、アンテナショップ[※]の開設や大規模小売店舗が力を入れている産直コーナーへの出店、直販ルートの新規開拓、インターネットを活用したネットショッピングサイトの開設などについて調査研究します。

用語解説

アンテナショップとは …………… 企業や自治体などが自社(当該地方)の製品の紹介や消費者の反応を見ることを目的として開設する店舗のこと。

(2)「市民の第二のふるさと」をめざす取り組み

① 定住の促進

人口減少や高齢化が進む中、自治会組織やコミュニティ活動、冠婚葬祭など地域の生活共同体としての機能が失われる島の出現が懸念されています。こうした現状を変え、島を活性化させるためには定住の促進に早急に取り組む必要があります。

島に定住するためには、就労や居住場所など生活基盤の確立、家族の移住に係る様々な問題への対応など、多くの課題があると考えられます。そのハードルを少しでも低くするために、移住を考えている島外の人が島での生活を体験し、一定期間の「お試し移住」が可能となる滞在型交流施設の整備や受け入れ体制の構築に取り組めます。

また、島では空き家や耕作放棄地が増加しているほか、廃校となった学校施設や教員住宅などが未利用のまま残されています。こうした未利用施設などを活用し、定住の受け皿としての利用を検討します。



漁港の風景(安居島)

② 里島ツーリズムの促進

平成22年度に開催された松山島博覧会(しまはく)では、94の魅力ある体験メニューを実施し、約2万人もの来島者にあるがままの心地よさなど島の魅力を味わっていただくことができました。また、平成23年4月には体験メニューの主催者が中心となり「まつやま里島ツーリズム※連絡協議会」を立ち上げ、しまはくで生まれた体験メニューの充実と創出に努めるなど、自立をめざした取り組みが始まっています。

このように、地域資源を最大限に活用したツーリズムの推進や地場産品を知っていた島に多くの人をお招きする「地産知招」の視点を取り入れながら交流人口の拡大を図ることは、島しょ部の活性化につながる重要な柱です。

そこで、本市では「まつやま里島ツーリズム連絡協議会」の活動や農家・漁家民宿などの島ならではのツーリズムを推進するための支援を行います。

さらに、愛媛県グリーン・ツーリズム※推進協議会との連携を深める取り組みに加え、本市島しょ部をはじめ広島県域やしまなみ海道などの島しょ部での開催が予定されている「(仮)大・島博覧会」を活用した広域連携により、島しょ部のさらなる活性化を図ります。

③ 里島ブランドの確立

産物の販売だけでなく、交流人口の増加や定住促進を効果的に進めるには、島の認知度や魅力度を高めていく必要があります。本市ではこれまでも様々なイベントや交流の機会を利用し、島の様々な魅力についてPR活動を行うとともに、「まつやま農林水産物ブランド」の推進により産物のブランド化に取り組んでいます。

こうした活動をさらに推進し、里島全体のイメージが個別の産物やイベントに結びつき、「里島ブランド」として定着するような取り組みについて検討します。さらに里島ツーリズムや定住促進、産物の販売促進・販路拡大の取り組みと連動しながら、「松山ブランド」とともに松山の島しょ部が全国に認知される広報戦略を展開し、「里島ブランド」の確立をめざします。

④ 未利用施設の利活用

島しょ部では、廃校となった小学校などの施設が未利用のままの状態にあります。

具体的な利活用の方法としては、滞在型の農園施設や自然学習の場としての海洋体験学習施設、農作物の栽培施設、地域資源を活用した農水産物の加工場、民俗資料館、広域通信制・単位制学校用の教育施設（協力校）などが想定されます。

これらの未利用施設を活用し、島しょ部の交流人口の増加や雇用の創出を図り、地域の活性化につながる施策について調査研究に取り組みます。



しまぼうと子どもたち(興居島)



丸子鼻(怒和島)

用語解説

里島ツーリズムとは …………… 松山市の造語。島しょ部ならではの「自然」、「文化」、「食」を中心とした様々な体験イベントなどを味わってもらい、島に住む人たちと温かな交流や出会いを楽しむこと。
 グリーン・ツーリズムとは …… 農山漁村地域において自然、文化、人々との交流を楽しむ滞在型の余暇活動。

平成24年3月発行

編集 松山市総合政策部企画政策課

〒790-8571 愛媛県松山市二番町四丁目7-2

電話 089-948-6816 FAX 089-934-1804